

# 低学年 児童期の学習

～保護者のみなさまへ～

もうすぐ夏ですね。鬱陶しい雨に見舞われる毎日が終わったら、こんどは照り付ける日差しに目の眩む思いをさせられる毎日がやってきます。お子さん共々、規則正しい生活リズムを維持し、蒸し暑い夏を元気に乗り越えましょう！



現在弊社の低学年部門では、**夏休みの講座**の受講生を募集しています。通学日数はいずれの学年も多くありませんし、お盆までに終了します。講座の内容に関しては、ホームページに具体的な情報をご提供していますので、そちらでお確かめください。

1・2年生の場合、授業で学んだことをベースに、ご家庭で「**できたかな？プリント**」に取り組んでいただきます。3年生には「**サマーワーク**」という家庭学習用教材をご用意しています。「**授業**」+「**家庭学習**」の組み合わせで、**学習の習慣づけ**と、**基礎内容の定着**に向けてお役に立つと思います。



低学年児童の場合、子ども一人では通塾は無理ですので、大人の送迎が必要であるという点が受講にあたってのネックになるご家庭も少なくないことでしょう。この問題がクリアできるようでしたら、ぜひ弊社の夏の講座に参加してみてください。授業日数は、**1・2年生が5日間、3年生が8日間**となっています。通常とは違った雰囲気、興味のもてる楽しい内容の授業を受ける体験は、お子さんを大いに刺激し、意欲的な取り組みの姿勢を引き出す効果も期待できると思います。夏休みの有効活用の一環としてぜひ夏の講座をご利用ください。



みなさんは、小学生時代の夏休みにどのような**思い出**をもっておられますか？ 長い休暇ですから、**日頃できないこと**がたくさん経験できます。しかしながら、どうかするとあっという間に終わってしまうのも夏休みです。お子さんの夏休み期間をどう生かすかを今からじっくりと考え、ぜひ有効に活用していただきたいですね。



児童期は人生の原風景を形成する時期だと言われます。子どもの頃に体験したことの数々が子どもの人となりや築いていくうえで大きな働きをします。できるなら、夏休みの期間にはおとうさんも時間をつくり、お子さんにとって思い出深い経験となる



イベントを用意してあげていただきたいですね。たとえば、自然に触れる体験もよいでしょうし、様々な珍しいものを見られる施設に行ってみるものよいでしょう。お盆の帰省での体験など、何気ないことも一生の思い出として残ることがあります。



私も、母親の里の小さな川一面を彩る蛍の光に心を奪われた体験があります。あれほどの美しい光景はほかに記憶がないほどです。

そう言えば随分前の話ですが、夏休みに息子（当時小1ぐらい）を連れて山里に行き、自然に棲むカブトムシを見せてやろうとしたことがあります。ところが、父親の私ときたらカブトムシについて詳しく知りませんでした。何しろ、カブトムシが好むクヌギの木がどんなのかも定かでなかったほどです。結局、足を棒にして林の中を歩き回ったものの、一匹も見つけられませんでした。気づけば空が赤く染まり始めています。「そろそろ帰ろうか」と、息子に声をかけたそのとき、**頭上から大きな虫がポトリと落ちてきました。**何とカブトムシのオスでした。カブトムシが落ちてきた木を指さして、「これがクヌギの木だ」と息子に知ったかぶりを言い、何とか面目を保ったことを懐かしく思い出します。



ある本を読んでいたら、ノーベル物理学賞を受賞した**リチャード・ファインマン博士（米）**の子ども時代のことが書かれていました。父親は決して成功者と言えるような人ではありませんでしたが、夏休みなどに息子のファインマン博士をよく博物館につれて行き、氷河痕などの模型を見ては熱っぽく説明してくれたそうです。その説明には間違いもあったそうですが、この父親の熱心な働きかけは少年期のファインマン博士の興味関心の方向づけに大きな役割を果たしました。何しろ**世界的な物理学者**を育てる原動力になったのですから。



私の余りにささやかな思い出と違い、ファインマン博士を育てたおとうさんの功績は計り知れません。子ども時代に親が差し向けてくれたさり気ない刺激や体験は、思いもしない結果を生み出すこともあるのですね。この学年の、この年齢の夏休みは人生で**一度きり**です。そのことを胸に、ぜひ今年の夏休みは親子でよい思い出づくりをしてみたいかがでしょうか。

